

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	運営推進委員会を通して、理念の浸透に努めたい。
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地区の行事に誘ってもらっているが、参加しているだけで、地域の一員として交流できているかは、今後の課題である。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者とパン作りや小物作りをしており、大衆食堂の営業許可をもらっているため、パンを売ったりして地域をまわっている。一人暮らしの人やパン作りに興味のある人と繋がりたいと思って、取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受けるにあたり、勉強会やカンファレンスを通し、外部評価、自己評価について勉強している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではサービスの実践を話し合い、地域との関わり方など、多くの意見をいただき、協力してもらっている。少しずつではあるが、地域活動にも参加している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町担当者と話す機会をもっても、一緒にサービスの質の向上を目指すような建設的な意見交流はない。他県のグループホーム協議会認知症ケア学会等と、質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度は、ユニット内で1名活用されている。管理者は制度について理解しているが、職員全員が理解して活用できているとはいえない。	○	管理者だけが理解しているのではなく、勉強会などを通して、学ぶ機会を持っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、勉強会で拘束廃止委員会を開催し、車椅子にずっと座らせている、言葉による拘束はないか、薬による拘束はないか等、話し合う場を設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>家族と十分話し合い、同意を得ている。また、他施設へ移れる支援をしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情等あれば、他の家族にも、こんな意見があったことを伝え、今後のサービスに繋げていく。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりや健康状態は、写真と一緒に職員がコメントを書き、毎月送っている。また、必要なことは随時連絡し、相談している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見、不満、苦情は、当事業所だけで共有するのではなく、他の利用者、家族にも伝え、再発防止に努めている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>カンファレンスや勉強会の時、意見を聞く機会を設けている。意見を聞き反映していくために、皆で話し合っている。また、管理者は介護業務も兼務しており、日ごろより介護職員との意見交換をしやすいよう努めている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>早出、日勤、遅出など、臨機応変に利用者の状況にあわせ勤務できるよう、スタッフも理解している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>邑のスタッフ全員が、邑全体の利用者を知り、馴染みの関係であって欲しいため、常に異動はある。異動等で職員が変わる場合でも、他の職員が雰囲気をごわさないよう努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内で行われる研修や法人外で受ける研修は、職員の段階に応じて、積極的に受け、サービスの質の向上に努めている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>相互訪問を行ったり、他施設の勉強会にも参加している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員だけの休憩の場は設けていない。利用者と一緒に過ごすことにストレスを感じないように、利用者との関係をどう作っていくか等、取り組んでいる。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>高すぎず、低すぎない、職員が目指しやすい目標を立て、向上心をもって働けるよう取り組んでいる。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>邑のデイサービスや小規模多機能型居宅介護からの入居が多い。職員はデイサービスや小規模多機能型居宅介護でどんな過ごし方をしているのか、入居になり、どうやって生活を支えていけばいいのか、入居前にデイサービスや小規模多機能型居宅介護で過ごしている様子を見にいたり、コミュニケーションをとるようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>邑のデイサービスや小規模多機能型居宅介護からの入居が多いので、デイサービスや小規模多機能型居宅介護の担当者と一緒に、家族面接をしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のニーズ、家族の要望を聞き、これからどんな支援をしていけばよいのか十分話し合うようにしている。訴えをうのみにするのではなく、必要な支援を冷静に判断し、対応するようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得せず、サービスを利用されることもある。誰が来ても雰囲気馴染めるよう、常にスタッフは考え、関わっている。また、家族には写真などで邑の雰囲気を伝えたり、開始前に足を運んでもらい、邑での生活を感じ、想像できるように働きかけている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	台所には利用者と立ち、料理の作り方や裁縫など、様々な場面で教えていただいている。また、足の不自由な利用者のために、近くのトイレをゆずったり、食事の手助けをしたり、支え合って生活をしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には必ず、利用者の生活の様子を伝えたりしている。また、「一緒に本人と過ごせる時間なので、また、面会に来たい」と思い、その頻度が多くなるような時間の過ごし方に配慮するよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月、邑で過ごしている様子の写真と手紙を送り、入居を決意したときの関係ではなく、今の様子をきちんと受け止めてもらえるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主な介護者以外の家族とも手紙や写真を送り、交流を持っている。利用者との会話の中で馴染みの人や場所を把握し、関係が途切れないよう関わっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビングで皆と過ごす時間も多く、孤立することはない。利用者が、他の利用者を気遣う場面も多い。喧嘩もするが、共に過ごす仲間と認め合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約の終了は他界による場合が多く、継続的な関わりが必要ということはないが、時折「近くを通ったので・・・」と邑に立ち寄ってくれることもある。	○	継続して、家族会への参加、推進委員会への参加等をしてもらいたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりとしっかりコミュニケーションをとり、入居者が思いのまま生活するのではなく、どうすれば生活の幅が広がり、生き生きと生活できるのか考えながら関わっている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者個人個人にあった生きがいを知り、生活の場面でそのことが活かせるよう関わっている。また、センター方式の中のシートを利用し、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員は、入居者のその日の調子や状況を見て、その人にあつた1日の過ごし方を考えている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に一度スタッフが集まり、モニタリングとケアカンファレンスを行っている。また、家族にも面会時に意見をもらっている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画についてのモニタリングは毎月行い、状態が変化したとき等、スタッフ、家族と相談のうえ、見直しをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を記入しているが、ケアの気づきや工夫の記入が十分でない。	○	支援したことだけを書くのではなく、ケアの気づきや工夫を積極的に書くようにしていきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	散髪やドライブ、病院面会等、本人や家族のその時々々の要望に応じて、利用者本位とは何かを、しっかり見極め支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	関係者と交流しながら協働し、本人が地域の中で暮らしていけるよう支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	運営推進会議のメンバーに、地域包括支援センター以外のケアマネジャーも来ていただいており、サービス内容を伝え、意見をもらうようにしている。そのことにより、他のサービスが増えたという実践はまだない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に出席してもらった際、地域の中で高齢者を支援する関係者のネットワークづくり等、意見をもらったり、協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医療機関を聞き、家族と相談のうえで、受診先を決めている。かかりつけ医とも入居者の普段の様子を2週間に一度報告したり、連携をとりやすいよう情報を共有している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師による講演会に参加する等して、職員が認知症をより深く理解できるよう努めている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	3階の計画作成担当者が看護職員も兼務しており、常に健康管理上、気になることは相談している。かかりつけ医と看護職員と協力し、利用者の生活を守るよう支援している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院後、状態を聞きに医療機関と情報を密に取り合い、早期退院に向け相談したり、連携をとっている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針について十分話し合い、後悔が残らないよう、家族会の場や面会時など、いろいろな場面で繰り返し話し合い、意見交換している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	法人全体でターミナルケアについての勉強会、ケース報告会等をしている。いつからがターミナルだから、ターミナルケアをするのではなく、職員、家族、入居者全員が後悔がないよういつも心に留め、家族、利用者に関わっている。また、かかりつけ医にも何かあれば些細なことでも相談し、かかりつけ医と家族、職員が連携できるよう取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人家族が、ホーム側と移行先の関係者による継続的な支援を受けられるよう、職員全員が必ず事前情報に目を通し、移り住むダメージを最小にするよう努力している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報、必ず個人のファイルに綴じ、職員の事務所で保管している。また、入居者のペースにあわせ、職員中心の介護にならないよう心がけている。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者一人ひとりのペースを掴みながら、職員は入居者とコミュニケーションをとり、どうすれば入居者が自己決定や希望を表し、住みやすい生活になるかを考え、支援している。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々の暮らしの中で、この時間にこれをするといったことは決めていない。利用者のペースにあわせ、見守っている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>一人ひとりの希望に合わせて、美容院、散髪屋の支援をしている。</p>	<p>○ 美容院で散髪できることが自信につながり、施設外の人と交流を持つことも楽しみになっている。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備は、必ず利用者で行っている。片付けは、できない利用者の食器を片付けてくれたり、助け合いながら、食事の時間を楽しんでいる。</p>	
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>おやつや食事は、広告を見たり、料理の本を見ながら相談し、決めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者の排泄パターンを把握し、排泄チェックシートなどを活用したり、排泄の合図に合わせたトイレ誘導を行う等、自立に向けた支援をしている。日中は、ほとんどの入居者が布パンツで過ごしている。	○	安易にオムツという考えではなく、どうしたらトイレで排泄できるか考え、支援し続けていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂嫌いや希望が出されないといって、週1～2回の何曜日のみと限定せず、入浴を拒む人に対しては、言葉かけの対応の工夫などにより、一人ひとりに合わせた入浴支援を試みている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	散歩に出かけたり、掃除や食事作りなど、日中の活動を通して、入居者の生活リズム作りを意識的に行っている。入居者が安心してくつろげるよう、ソファや椅子の配置等に気をつけている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花の水やりやごみ捨て、食事作り等、一人ひとりの楽しみごと、役割、出番を作りだす取り組みをしている。	○	週一回の陶芸教室を活用して、楽しみごとや活躍の場を広げていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理されている方はいないが、買物など支払いができる方にはお金を預け、支払いしてもらったり、どこまでお金の自己管理ができるのかを考え、関わっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園や買物は、日常的に行っている。	○	今後も近くの公園や買物に利用者と行き、地域交流に繋げるよう関わっていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族で、個別に喫茶店やドライブに行っている利用者もいる。	○	もっと利用者と家族が、一緒に外出できるよう機会をつくり、関わっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族との手紙のやり取りはしている。手紙を書けない利用者には、職員が日ごろの様子を伝える手紙や写真を送っている。	○	疎遠になっている入居者の家族にも、入居者の日頃過ごしている様子を伝え、もっと交流を持ちたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族がホームに来られた時は、必ず声をかけ、入居者の様子や他の家族のこと等を伝えている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の立場に立って考え、職員同士が気づき合い、その都度話し合っている。身体拘束はない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には鍵をかけず、出たいと言われたり、出て行こうとしたら、すぐ一緒に出かけられるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者の一人ひとりがどこで何をしているか、常に考え、一緒に生活をするようにしている。また、職員同士でも連携を取り、利用者一人ひとりが安心して過ごせるよう見守っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品をなくすのではなく、注意の必要な物品があれば、利用者の状況に応じて見守り、言葉かけや一緒に行う等して、安全に使っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会等で話し合ったり、事故報告書等で再発防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人内で年に1度、救急隊を招いて研修会をしているので、その研修会に参加している。勉強会でも取りあげ、経験のある職員が経験のない職員に教えたり、フォローし合い、いざという時に対応できるよう連携をとっている。	○	今後も、定期的に勉強会や話し合いの場に取りあげていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1度、消防署の立会いのもと、避難訓練をしている。避難誘導マニュアルは、すぐ職員が手にとれる見やすい所に置いている。運営推進会議でも取りあげ、連携をとっていけるよう働きかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時には、必ず話すようにしている。遠方の家族の方ともメールや電話等で、意見交換している。	○	リスクが家族にとって施設への不振に変わらないよう、ちょっとしたことでも報告、相談している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	食事量の増減と普段の生活ぶりをよく観察し、生活記録に残している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、必ず利用者一人ひとりの薬の目的や副作用、用法を理解し、服薬したあとは確認して、症状や変化に気をつけている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	天気の良い日は、散歩や歩ける公園へ外出したり、便秘ぎみの利用者には、1日1本野菜ジュースを飲んでもらったり、自家製のヨーグルトを作り、食べてもらう等、便秘の予防に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝夕は、個別に応じた口腔ケアをしている。昼は声かけのみで、職員の意識も薄い。	○	昼食後の口腔ケアの支援をもう少し考え、職員同士で話し合い、また、嘱託の歯科の先生と相談し、連携をとっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜中心の食事を心がけている。食事摂取量は、個人記録に書かれている。水分量の把握は、職員間で話し合い、分かりやすいよう記録に記入している。常に、スポーツドリンクや野菜ジュース、ゼリーなどを作り、美味しく取れるよう工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎日必ず、食器や包丁等の熱湯消毒をしている。おむつ交換時は、新聞紙に包み片付けている。出血、吐物の処理には、手袋、マスクの着用を徹底している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材や野菜のまとめ買いはせず、その都度、買物に行ったり、工夫して使い切れる量を考え、購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には木や花を飾り、明るい雰囲気を作っている。スリッパや靴を利用しやすいよう、配置を工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳を多く使い、窓もカーテンをしたり、食器棚や冷蔵庫等は、いずれも利用者が使いやすく生活しやすいよう、遠慮せず、自分の家でくつろげる空間を作る配慮をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他にも、機能訓練室や廊下側にソファを設置しており、リビング以外の場所でもくつろぎ、思い思いに過ごしてもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ってきていただいたり、生活上で足りないものは、できるだけ職員と一緒に買物へ行き、気に入ったものを選んでもらう等、居室が馴染みの部屋になり、安心して過ごせるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的な換気、利用者が自ら換気しようと思えるよう関わりを工夫している。温度調節は、利用者の目線に立ち、職員の過ごしやすい温度ではなく、利用者が過ごしやすい温度になるよう気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂場は手すりや椅子を使用して、転ばないよう工夫している。移動や入浴で危険を感じる方には、必ず職員がつくようにしている。職員は全面的に介助するのではなく、できること、できないことを見極め、見守り、必要な時は手を貸し、自立にむけた支援をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の分かること分からないことを見極め、自尊心を傷つけないよう、さりげない声かけをしている。	○	声かけだけでなく、身振り手振りや物の配置を工夫して、自分の目で見て分かるよう支援していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りに、花や野菜を植えたり、ベランダにプランターを置き、自然に過ごせるよう配慮している。	○	ベランダに椅子や机を置き、休憩や憩いの場になるような空間にしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・この時間にこれをしなければいけないという時間はなく、日々の暮らしの中で、入居者とどう一日を過ごしたいか決め、共に生活している。
- ・食事は毎日3食、利用者と一緒に献立を決め、食事を一緒に作っている。
- ・鍵はかけず、利用者が出たいと言われたり、出て行こうとしたら、すぐに一緒に出かけられるようしている。
- ・散髪は近所の美容室に行きカットしてもらっている。足の不自由な入居者は、そこの美容室の美容師がスロープを用意してくれたり、相談しながら工夫し、美容室の鏡の前で、散髪できることが生活の楽しみや地域交流に繋がっている。
- ・週に1度、陶芸教室を行っており、少しずつ利用者に浸透してきている。陶芸教室が、利用者の生活のレクリエーション化や地域交流に繋がるよう取り組んでいる。